

## ローマ人への手紙:「救い」という王冠の宝石

罪の力を打ち砕くために真理を用いる

ローマ人への手紙 6:1-14

Grace Fellowship Church / Pastor Brad Bigney / Jan. 19, 2014

聖化：クリスチャンの人生において残存する罪の力に対して、私たちがどのように戦うかという継続する過程

義認：私たちの罪の刑罰を一度で全て支払うために、キリストが十字架上で完成されたみわざ。

ローマ 6:2 罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。

ローマ 7:21-25 <sup>21</sup> そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。<sup>22</sup> すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、<sup>23</sup> 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているの見いだすのです。<sup>24</sup> 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。<sup>25</sup> 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

ガラテヤ 5:17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

キリストにおいて新生した命が、クリスチャンになる以前よりも、ずっと強烈な全く新しい戦いへとあなたを導くのです。

「ある意味において、クリスチャンになるまで、人生はそれほど複雑にはならない。けれど、クリスチャンになると、古い自分と新しい自分の間での激しい戦いへと突入するのだ。」-R.C. Sproul

**I. とすると…、パウロが罪の中に生き続けることができないう時、何を意味しているのでしょうか？**

**A. もはや罪があなたの特徴となることはない**

罪はいまだにあなたを悩ませるかもしれませんが、あなたを特徴づけることはもはやありません。罪が、あなたの生活全体を表すパターンとはならないのです。

**B. もはや罪があなたを所有することはない。イエス様があなたの新しい主人なのだから。**

ローマ 6:6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。

パウロが私たちに言っていることは、キリストとともに十字架につけられたことの結果は、私たちがもはや「罪の奴隷」ではないということです。

ローマ 6:14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。

キリストにあって、あなたは、罪の奴隷となり罪に縛られることから解放されました。けれど、あなたはまだ、罪の存在から逃れられたわけではありません。

まだ戦いがあるという事実は、あなたが自由でない、という意味ではありません。依然として残る苦闘によって、神のことが真実であるという喜びと自信が、奪われないようにしてください。

あなたは、今や自分がキリストにあってどのような者なのか、という神の真理によって心を一新しなければなりません。さもなければ、あなたは奴隷思考のまま人生をよろよろ歩き続けることになります。たとえキリストの十字架が、罪からの自由という解放宣言として立っているのにもかかわらず。

- C. あなたの肉にある罪はいつでもあなたの前にあります。—だから、自分自身に耳を傾けるよりも、言い聞かせることを学ぶ必要があります。

「あなたの人生における不幸の殆どが、自分に言い聞かせる代わりに、自分自身の声を聞いているという事実が原因であることに気付いたことがありますか？」

- Martyn Lloyd-Jones

毎日私たちは二つの単純な選択に直面しています：

- (1) 私たちは、自分自身と、回りの状況について常に変化する感情に耳を傾けることができます。
- (2) もしくは、神がどんな方で、私たちのために十字架上のひとり子において何を成し遂げてくださったかという、変わることの無い真理を自分に言い聞かせることができます。

余りにも多くの場合、私たちはただ受身で自分の声に耳を傾けています。絶え間なく変化する回りの状況によって揺れ動く感情から、神や人生の見方を形成しながら。 .

詩篇 103:1-5 <sup>1</sup> わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。 <sup>2</sup> わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。 <sup>3</sup> 主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいや、 <sup>4</sup> あなたのいのちを 穴から 贖い、あなたに、恵みとあわれみとの 冠をかぶらせ、 <sup>5</sup> あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのように、新しくなる。

詩篇 42:5, 11; 43:5 <sup>5</sup> わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。… v. 11 わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。なぜ、御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い、私の神を。… 43:5 わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。なぜ、御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い、私の神を。

あなたは自分自身に真理を言い聞かせ、自分自身の声や変わりやすい感情に耳を傾けるよりも、自分に語る習慣を身に付けることを学ぶべきです。

「気分とは、感情が意思の上に立つ、日々の生活の伴奏のようなものだ。私たちがシオンへと行進する時、楽隊の演奏があれば最高に楽しいけれど、なくてはならないものではない。私たちは、音楽が無くても働けるし、歩ける。もし私たちに真の信仰があるなら、気分無しに神と伴に歩むことができる。」 *The Root of the Righteous* Pg.127 AW Tozer

キリスト者の勝利ある信仰生活とは、詰まるところ、主観的な感情と神の客観的な真理の狭間での戦いにおける勝利です。

ヨハネ 8:32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

けれど気分があなたを支配したがりませんか？一度気分明け渡したら、簡単にはあきらめません。あなたの生活における神の真理の正当な場所を奪おうとし続けます。でもそれを許さないください。戦いましょう！真理によって反撃しましょう。

「気分は大嘘つきだ。…様々な場面で大切なことでもあるが、信仰となると全く信頼できないものだ。…聖書は、私たちがどう感じるかということに無駄な時間を割いてはいない。…私たちは気分が伴わなければ、実行する価値が無いと考える。けれど、神の知恵は別のことを告げる。即ち、私たちは新しい行動を始めるために自分の気持ちを向けさせることよりもずっと早く、新しい気持ちを生み出すために行動を起こすことができるのだ。」 *A Long Obedience in the Same Direction: Discipleship in an Instant Society*, Eugene H. Peterson, pg 49-50

あなたは、あなたの生活における罪を良い気分によって打ち負かすことはできません。罪を打ち負かすのは霊の剣、即ち神のみことば、神の真理です。

私たちの罪と戦う力と罪の奴隷からの自由は、私たちの気分を土台とはしていません。神のみことばと、十字架上で罪とサタンに一度で全ての人のために打ち勝ったキリストとの一体を土台としているのです。